

校務の効率化をめざして

-Notebook LMについて-

Vol.6 令和7年 8月 19日発行

「校務DX(デジタル・トランスフォーメーション)」をテーマに、「できることから」という視点でコンテンツを提供します。

山口県教育庁教育情報化推進室

さまざまなAIのツール

昨年12月に文部科学省による「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」が改定されました。ガイドラインに、(生成AIを利活用することにより)「校務の効率化や質の向上等、働き方改革につなげていくことが期待される」とあるように、生成AIは学校の業務を変革する可能性を含んでいます。

しかし、文部科学省の調査で、校務での生成AIの活用状況を確認すると・・・

【★文部科学省チェックリスト項目34★】

・「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」に基づき生成AIを校務で活用していますか

R5達成状況

1.2%

R6達成状況

2.7%

文部科学省:GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト

この数値からもわかるように、学校での生成AIの活用はまだまだ進んでいるとは言えない状況です。

学校現場からは、「生成AIをどのように活用すればよいかわからない」、「生成された情報の信憑性・正確性に不安がある」といった声もあります。

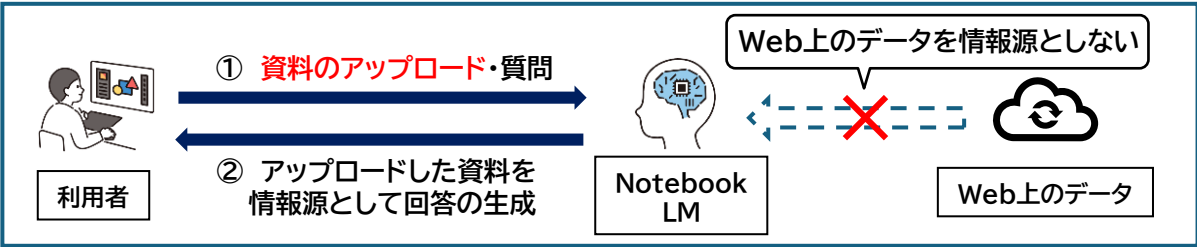


生成AIサービスを校務や授業準備等で上手に活用するために

そこで、今回紹介するツールは、県教委が付与しているGoogleアカウント(通称:Gドットアカウント)で利用できるAI搭載のノートツール「Notebook LM」です。

このツールの最大の特徴は、不確かな情報を含むインターネット上の様々な情報源を基に回答を生成するのではなく、学習指導要領など自分で指定(アップロード)した資料を情報源としてAIが応答することです。

【Notebook LMのイメージ図】



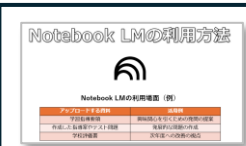
➡情報源が限定されるため生成された情報の信憑性、正確性が大きく向上する可能性！

例えばこんな使い方が！

利用例① 学習指導要領をアップして、特定の単元の導入部分で、興味・関心を引くための発問を提案させたり、グループ活動でのアイデアを提案させたりする
主體的・対話的で深い学びの実現に！

利用例② 自分で作成した指導案やテスト問題等をアップして、発展的な問題や正答率が低かった分野を克服するための問題を作成する
個別最適な学びの充実に！

利用例③ 学校評価書をアップして、学校運営の次年度への改善の視点を得たり、学校運営協議会での報告書作成の参考にしたりする
業務改善や校務の効率化に！



Notebook LMの利用方法や、学校でのDXを推進していくための具体的な事例などを、これまでの通信とともに「やまぐちICT新たな学びラボ」に掲載しています。是非ご覧ください！

